



洋上アルプス

No.310

2021年1月5日

発行 林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



雪の太忠岳・花折岳

新たな管理経営計画の実施



屋久島森林管理署
署長 西 純一郎

明けましておめでとう
ございます。旧年中は当署
に対して格別のご支援、ご
厚情を賜り、心からお礼申
上げます。
昨年は新型コロナウイルス
ルスに特に神経を傾注し
た1年でありました。皆様
におかれましても、いろい
ろな対策や予防措置など

新年を迎えて



屋久島森林生態系
保全センター
所長 林 友和

新年明けましておめで
とうございます。
旧年中は、屋久島森林
生態系保全センターの取
り組みに対し、格別のご支
援とご協力を賜り心から
お礼申し上げます。

に日々ご苦労いただいた
ことと思えます。
さて、当署では令和元
年5月18日豪雨災害の
対応にも追われた1年で
した。令和元年度中に南
種子町の林道、2年度に
入り住宅地や休憩施設の
後背崖地などについては
工事が完了しましたが、太
忠岳地区周辺ほかの4施
工地に関して現在工事中
です。新年度中には全て完
工予定です。
令和3年度は、新たな

第6次の地域管理経営計
画や国有林野施業実施計
画の開始年になります。3
年度から7年度までは両
計画ほかに沿って屋久島
の国有林野を管理経営す
ることになります。両計画
では、地域の木材である
「地杉」の生産・販売促進
に取り組むことや、平成
29年に認定された「林業
遺産」の区域を新たにゾ
ン化したほか、生物多様性
の保全、二酸化炭素の吸
収・固定源としての機能の
発揮に留意しながら、これ
まで以上に複層林や針広

混交林、小面積・モザイク
的配置に留意した施業な
どに取り組むこととして
います。
今年は、東京オリンピック
ク・パラリンピックが延期
され実施されます。屋久島
では、「小杉谷閉山50周
年記念祭」や「屋久島憲法
100周年記念シンポジ
ウム」が開催される予定で
す。
最後に、本年が皆様に
とって素晴らしい年にな
りますようご祈念申し上
げ、新年のご挨拶といたし
ます。

昨年を振り返りますと、
年初からの全国的なコロ
ナ禍の影響を受け、屋久
島においても町民をはじめ
め、観光を生業とされる
方々、各種対応にあたられ
た団体、行政機関、医療関
係者におかれましては、多
大なるご苦労があったこ
ととお察し申し上げます。
7月には「令和2年7
月豪雨」により、熊本県南
部を中心に九州をはじめ
日本各地で甚大な被害が

発生しました。ご家族や知
人を亡くされた方、今も元
の住まいに戻れない方々
に改めてお見舞い申し上
げます。
さて、当保全センター
は、平成7年3月に屋久
島森林環境保全センター
として発足以降25年を迎
えるとともに、本紙「洋上
アルプス」が300号を発
行できました。

このことは、長年本紙を
掲示板に掲示いただい
て
おります各機関、また、貴
重な記事を提供をいた
いた地元各位のご協力の
おかげであり改めて感謝
申し上げます。今後も、本
紙が屋久島の皆様の目に
留めていただけるよう、職
員一同励んで参る所存で
あります。
最後に、本年が「禍を転
じて福となす」となる年と
なることを祈念し、新年の
ご挨拶とさせていただきます。

令和2年度 高層湿原保全対策検討会を開催 (11月20日)

今回は新型コロナウイルス感染防止対策のため、会場を5箇所に分けWEB会議の方式での開催となりました。

会議では、水の収支や気温・水温等の各種モニタリング調査の中間報告及び丸太木柵工による試行的保全対策等に関する報告と次年度以降に係るモニタリング調査事項について提案がありました。

出席者からは、地質の調査結果の報告や希少野生生物（ハベマメシジミ）の生息域確保のための対策を早急に行うこと、近年湿原自体の遷移による水位の低下が見られ、優占する植生も変化している等の意見が出されました。

今後も高層湿原の保全対策に向け継続的なモニタリング調査を実施する予定です。

令和2年度 松枯れ対策連絡協議会を開催 (11月27日)

当保全センター会議室において令和2年度松枯れ対策連絡協議会屋久島支部会を屋久島森林管理署、環境省屋久島自然保護官事務所、鹿児島県屋久島事務所、屋久島町、森林総研九州支所、屋久島ヤクタネゴヨウ調査隊の関係者19名が参加して開催しました。



屋久島の松枯れの現状について意見交換

当保全センター所長の司会進行により、各機関から本年度の屋久島における松枯れ被害の状況とその対応策等について報告があり、屋久島の松くい虫被害は昨年度より増加しており、特に西部林道に近い栗生地区や瀬切川周辺の世界自然遺産地域内で発生していることが報告されました。当該地区はヤクタネゴヨウの生息区域でもあり、特に集中的な対策が必要との意見がありました。

また、森林総合研究所九州支所の金谷整一主任研究員から、ヤクタネゴヨウの衰退と保全活動について説明があり、予算事情の厳しい中、効率的な対策についての提案もありました。

屋久島森林管理署及び当保全センターとしては、今後とも松枯れ対策連絡協議会の関係機関と連携協力して、松枯れ対策を講じていく考えです。

屋久島憲法100周年記念シンポジウム準備委員会の開催 (11月30日)

屋久島離島開発総合センターにおいて今年度3回目の屋久島憲法100周年記念シンポジウム準備委員会が開催されました。

令和3年11月に屋久島町で予定されるシンポジウムを開催するにあたり、屋久島憲法に関連する様々な視点から現状を報告するため準備委員会を定期的に開催しています。

今回は屋久島森林管理署長から「国有林、共有林、民有林そして世界遺産屋久島の山の資源利用の現状」、当保全センター所長から「今後の屋久島森林生態系保全について」として話題の提供を行いました。

出席者からは、森林教室の状況、国有林の施業（誘導伐）についてなど国有林に対して様々な質問がありました。

次回の準備委員会は令和3年1月中旬を予定しており各共用林組合から取組事例を発表していただく予定です。



当保全センター所長による業務内容等を説明

古に人が運んだ植物（第1回）

—— バナナ（リュウキュウバショウ） ——

寺田 仁志（鹿児島大学 非常勤講師）

宮之浦港からの道が県道に突き当たる付近に小ぶりのバナナ（リュウキュウバショウ）がぎっしりと生えているのにお気づきでしょうか。このバナナをみると私はイソップ童話の「酸っぱいブドウ」を思い出します。

このバナナの生育地付近は田尻と呼ばれ、かつては水田の末端部でした。水田にはドジョウもおり、収穫の終わった水田は子どもたちの密かな遊び場でした。当時はおやつという言葉が屋久島の一般家庭にはない生活でしたので、黄色く熟れたバナナは垂涎の逸品でした。ところがバナナの房の位置が高くていくら頑張っても子どもには届きません。田尻は現在と同じく連絡船の発着場で人通りも多いところなので黙って取るのが見つかる懸念もあります。そこで、あのバナナには毒の爆弾が入っていると思うことにしました。

リュウキュウバショウは熱帯性の植物で東アジア原産（不詳）といわれています。沖縄県をはじめ、鹿児島県では大隅半島の佐多以南にも生育し群落をつくっています。この果実には多数の硬い種子が入っており、熟したものはわずかに果肉が入っていますが、とても食べられるものではありません（写真1）。食用に物足りない外来植物がなぜ、ここで群落をつくっているのでしょうか。

バナナは巨大な草本植物で、根から続く葉（偽茎）には長い繊維が含まれ（写真2）、かつてはこの繊維を利用して芭蕉布を作りました（写真3）。芭蕉布は丈夫で織りも美しく肌触りがよく、蒸し暑い南西諸島の着物として、特に琉球王朝では重宝され、盛んに生産されました。ところが、芭蕉布の製作には、株の生産、葉を切り取ってから芭蕉布ができあがるまでの製作工程も多く、土地、技術と根気、膨大な時間が必要です。明治以降の産業構造、生活様式の変化によって大量生産、大量消費に向かない芭蕉布は地域の日常から消えてしまいました。



写真1. 種子がいっぱいの果実



写真2. この偽茎から繊維をとる



写真3. 取り出された繊維と紡がれた着物

その後、与論島や沖永良部島、徳之島などでは地域の方々の思いと努力で見事な製品が作られるほど復活しており、沖縄県大宜味村喜如嘉では現在製作技術が国の文化財にもなり、相当の値段で販売されています。

屋久島にはここのほか一湊、永田、安房等にも小規模な群落があります。芭蕉布もつくられていたと思われませんが、着物も紡織具も屋久島町歴史民俗資料館には収蔵されていません。屋久島にこの植物がいつ伝来し、島民の生活にどんなどんな役割を果たしてきたのか気になります。（つづく）



高層湿原の植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討（平成30年度）①

● 植生保護柵内外の植生状況モニタリング

【目的】 高層湿原（小花之江河）において、ヤクシカによる食害、踏圧から高層湿原の植生を保護するための植生保護柵を設置（H29年10月）。

【調査地】 小花之江河の3箇所を設定されている10プロット（1m×1m）とする（図）。

【方法】 上記植生保護柵内外にある調査プロットについて植生調査を実施（H30年8月）し、柵内外の植生の回復状況を確認。

【結果】 確認種：合計25種。

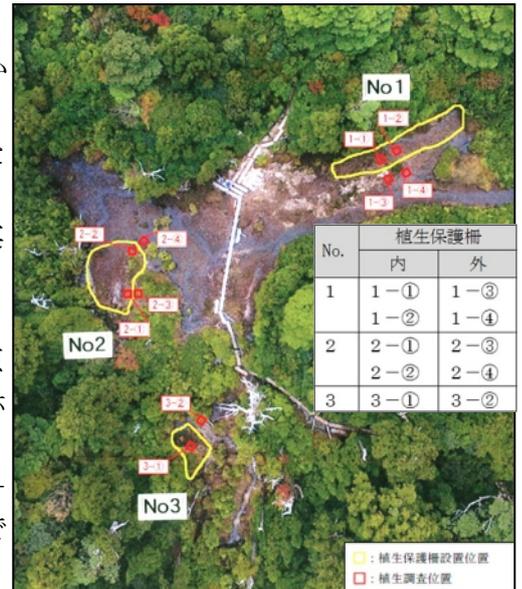
保護柵No.1及びNo.2はハリコウガイゼキショウを主体とするプロット。湿原の中でも比較的乾燥したプロット1-①、1-③、2-①、2-③にはヤクシマホシクサ、ユミゴケの進入・増加を確認。2-③ではヤクシカの糞を確認。

湿原の中でも比較的湿潤なプロット1-②、1-④、2-②、2-④のうち、1-②、2-②（柵内）でヤクシマホシクサの増加を確認、1-④、2-④（柵外）では同種の被度・群度に変化は確認されなかった。

保護柵No.3は比較的乾燥し、イボミズゴケを主体とするプロット。3-①ではイボミズゴケの被度・群度に変化がなく、コケスミレ・マイヅルソウ・モウセンゴケの進入が確認される等、合計18種を確認。3-②ではイボミズゴケの群度に減少が確認され、アセビ・キッコウハグマ・コハリスゲが消失した一方で、コケスミレ・スギ・ヤクシマママコナ・ユミゴケ・リョウブが進入し、合計13種を確認。

スギゴケは柵内外を問わず、比較的乾燥したプロット内で確認され、湿潤なプロットでは確認されなかった。アリノトウグサ、モウセンゴケの消長については柵内外を問わず起きていた。

No.1、No.2の柵内ではユミゴケについても、同エリアの柵外プロットより増加傾向が確認された。コケ類の増加はノギラン・コケスミレ・コケリンドウといった高層湿原の植物の定着に寄与するため、今後も経過に注視する必要がある。



植生保護柵設置位置と植生プロット位置

自然休養林情報

ヤクスギランド④ つつじ河原コース

ヤクスギランドのつつじ河原コースは、標高約1000mから1020m、延長約2km、所要時間約80分のコースです。ここでは、「荒川橋」を渡った先に延びる、つつじ河原コースの見所を紹介していきます。

「荒川橋」を渡ると、遊歩道から登山道へと変化します。木の根がむき出しになった登山道ですが、アップダウンはゆるやかで比較的歩きやすいコースです。清流「荒川」を横目に歩いて行くと、小さな橋「苔の橋」が見えてきます。橋の横には、休憩ができる東屋があり、美しい苔や花などをゆっくり鑑賞することができます。「苔の橋」を渡ると、「つつじ河原」に下りて行く小道があります。「つつじ河原」では、5月から6月にツツジの開花シーズンを迎え、青い川と赤い花のコントラストが訪れた人の目を楽しませてくれます。



つつじ河原

そこから、大きな杉や土埋木などを鑑賞しながら進むと、ヤクスギランド内で一番長くて高い吊り橋「沢津橋」に到着します。橋から眺める深い山の景色、下を流れる壮大な川音、自然の豊かさを存分に味わうことができます。その先は、50分コースの遊歩道に合流し、約1kmで出口に到着します。

